

県政この一年



今年、福井県の将来の発展の方向がはっきり見えてきた1年でした。高速交通体系の整備が進展し、全国から注目を集めたことを追い風に、福井県の魅力を強く発信。発展の鍵となる子どもたちや若者、女性の活躍が県民を元気づけました。また、人口減少対策が大きく注目され、様々な対策を強化した年でもありました。年末を迎えるにあたり、今年の県政の動きを、「福井ふるさと元気宣言」の4つのビジョン「元気な社会」「元気な産業」「元気な県土」「元気な県政」に沿ってご紹介します。

高速交通網の整備が大きく前進!

3月、中部縦貫自動車道の福井北一松岡間が開通し、北陸自動車道と直結しました。来年度には永平寺大野道路の福井北一大野間が全線開通予定で、昨年全線開通した若狭さとうみハイウェイと合わせて、嶺南地域から大野まで県内全体が一本の高速道路で結ばれることになります。大野油坂道路については、4月の大野一太野東間の事業化により、県内区間の全線が事業化されました。今後は、北陸新幹線敦賀開業に合わせた平成34年度までの中部縦貫自動車道の全線開通を目指していきます。



九頭竜川橋りょうを通る北陸新幹線(イメージ)

3月に金沢まで開業した北陸新幹線については、県の要望どおり敦賀開業の3年前倒しが決定。10月には、新幹線と道路との一体橋となる九頭竜川橋りょう工事に着手するなど、県内の約3割の区間で工事を進めています。また、敦賀以西の延伸ルートについては、小浜市付近を通る若狭ルートが国の整備計画で決定された正式なルートです。若狭ルートで整備することにより、大阪まで乗換えなしで直通でき、他のルートより大きな時間短縮効果が生まれ、料金も安くなります。県では、来年中の若狭ルートの決定を政府・与党に強く求めています。

こうした高速交通網の整備効果もあり、県内の主要観光地8か所の観光客入込数が昨年より2割増加し、特に一乗谷朝倉氏遺跡は、11月までで年間入込数が初の100万人を突破しました。また、都道府県別の魅力度ランキングが前年の45位から29位に上昇するなど、福井県への注目度が高まっています。

人口減少に歯止めをかける

6月から、県内各分野の代表者でつくる「ふくい創生・人口減少対策推進会議」において検討を進め、10月に、平成27年度から5か年の戦略をとりまとめました。自然減対策では、3人目以降の子どもの保育料無料化を小学校入学前までに拡充。若者に結婚の良さを伝える「いいね!結婚ふくいキャンペーン」を開始したほか、出会いを応援する「縁結び活動」をお寺や職場へ拡大しました。社会減対策では、U・Iターン者を増やす体制を作るため、福井Uターンセンターを開設し、移住希望者の相談体制を強化。県外大学とのUターン就職支援協定の締結や、都市圏での「幸せ移住」セミナーの開催、「ふくいの就活女子応援員」による女子学生の県内就職促進などを行っています。また、主に学生を対象に、福井の子育てや教育、住環境など、東京と比べた暮らしの良さを伝える「ライフデザイン設計書」を作成しました。



県民の幸せな結婚エピソードをCMで放送

元気な産業

観光とスランドを産業の柱に

ダントツブランド恐竜 絶好調!

恐竜博物館では、過去の発掘で見つかった化石が、新種の草食恐竜であると発表し「コシサウルス・カツヤマ」と命名。また、世界初公開の化石などを多数展示した開館15周年記念特別展などが人気を呼び、年間入館者数の過去最高記録を更新し、今年度は80万人を突破しそうです。現在、新たに購入した恐竜化石などを順次公開しています。ぜひ、ご覧ください。



「本物」の恐竜が魅力の恐竜博物館

観光客を呼び込む

北陸新幹線の利用者を県内に呼び込むため、JR金沢駅に福井県観光コンシェルジュを配置。また、JR福井駅西口広場に動く恐竜のモニュメントを設置したり、駅舎の壁面に恐竜時代の風景画を描き、恐竜王国福井をアピールしました。「福井の空港」小松空港には、アンテナショップ「福井のみやげ」をオープンし、県産のお菓子や工芸品など土産物の販売を開始。さらに、観光地の魅力アップのため、市町とともに福井市のグリアイス記念館や敦賀赤レンガ倉庫など、歴史を実感できる施設を整備。また、ミシュラン2つ星を獲得した永平寺の門前の整備を開始しました。10月からは、JR各社と協力して「北陸ステーションキャンペーン」を展開し、全国から観光客を呼び込みました。

由利公正を大河ドラマに

幕末明治期に活躍した偉人を多数輩出した福井県。明治維新から150年となる平成30年に向け、由利公正を主人公とした大河ドラマの誘致活動を始めました。五箇条の御誓文の草案の起草や太政官札の発行など、多くの功績を残した由利公正の活躍を全国に発信し、福井県の知名度向上と誘客拡大、ふるさとへの誇りや愛着の醸成につなげます。



幕末明治期の偉人 由利公正 (福井市立郷土歴史博物館蔵)

福井の食を全国へ、世界へ

福井県出身の天皇の料理番であった秋山徳蔵をより知ってもらおうと「ふくい味の祭典」やフォーラムなどで紹介しました。また、「弾(ZEN)」と精進料理の福井」をテーマに、ミラノ国際博覧会に出席。福井の食文化や伝統の技などを世界に発信。現地のバイヤーや旅行代理店との高談会・観光交流会を開催し、新たなビジネスチャンスを生みました。



炭素繊維複合材料を採用したエンジン部品

技術と戦略で勝ち抜く福井の産業

優れたものづくりの技

県の特許技術により作られた炭素繊維複合材料が、旅客機の新型エンジン部品に採用されました。こうした県内企業の成長分野への展開をサポートするため、「ふくいオープンイノベーション推進機構」を工業技術センター内に設置。県や県内企業、県内外の大学・研究機関等600名を超える研究者のほか、資金協力を行う金融機関も含めた支援体制を整え、福井県発の革新的な製品開発を進めます。

新しい方向をひらく農林水産業

食のブランド戦略

福井生まれのブランド米コシヒカリを超える「ポストこしひかり」を開発するために、今年には県内各地での実証栽培を開始。10種類まで絞った候補は、生産者から作りやすいとの評価を得ています。また、姿、形が立派な越前がにを、最高級ブランド「極」として全国へPR。認知度の向上や、販売額拡大につなげています。さらに、新たな福井ブランドを目指しトラウトサーモンやマハタの養殖を進めたり、伝統野菜を「福井百歳やさい」としてブランド化し、産地を拡大。三ツ星若狭牛についても販路拡大などが順調に進んでいます。



越前がに「極」

新たな担い手を育成

ふくい園芸カレッジに、スマート園芸コースを新設。ICTを活用し、野菜を一年中栽培できる技術を、研修生たちが実践的に学んでいます。新たに開設したふくい水産カレッジでは、海女を目指す女性が、海洋環境などの座学研修や漁業実習を開始しました。

福井県は安全性の向上を確かめ、高浜発電所3、4号機の再稼働に同意

福井県では、40年にわたり、安全神話はないという姿勢で、絶えず緊張感を持って対処してきた実績があり、事業者はもちろん、国に必要な任せにせず、安全向上の実現、県民の理解・信頼の確保に努めてきました。高浜3、4号機の安全性の確保を原子力規制委員会任せにせず、県民の立場から、ハード、ソフト両面について安全確認を徹底して行いました。また、国に対して、原子力の重要性・必要性に対する国民理解の促進、エネルギーミックスの明確化などについて実現を強く求めるなど、県民益を第一に十分慎重に対処してきました。その上で、地元高浜町や県議会の意見、県原子力安全専門委員会の安全面の評価、国や事業者から示された方針などを総合的に勘案し、再稼働に同意しました。県は、引き続き原子力発電所の安全追求には終わりはないとの方針の下で、県民の安全・安心を守るため、一つひとつ丁寧かつ真摯な対応をしていきます。



関西電力高浜発電所

元気な県土

県土に活気の高速交通時代

県都のまちづくり

「県都デザイン戦略」にもとづき、福井城址西側の御廊下橋につながる山口御門の復元を進めています。現在は石垣の積み直しや、基礎工事に着手。今後、県民の皆さんにご寄附いただいた笏笏石やヒノキなどの建築材料を活かすことにより、平成29年春の完成を目指します。



進む山門口御門の復元

福井駅周辺では、えちぜん鉄道が新幹線の高架橋を利用した仮線運行を開始。さくら通りと新福井駅付近の2か所の踏切が廃止され、交通の流れが円滑化し、渋滞が解消されています。

元気な社会

すぐれた医療と支えあいの福祉

陽子線がん治療を充実

県立病院陽子線がん治療センターでは、手術に比べて副作用が少なく、からだに優しいがん治療として注目されている「陽子線がん治療」を実施するとともに、治療効果の向上に向けた研究を行っています。さらに研究体制を強化するため、センター内に新たに「陽子線治療研究所」を設置。治療期間の短縮や、患者さんの負担軽減などにつながる研究を進めています。

冬場も元気に健康づくり

生活習慣病や認知症予防に効果があるとされ、身体機能の維持につながるウォーキングを推進。降雪の影響が少ないショッピングセンターや商店街で、冬場のウォーキングイベントを開催しています。平成30年の福井しあわせ元気国体・大会を一躍に盛り上げるため、まずは手軽な運動から始めてみませんか。

豊かな環境、もっと豊かに

福井生まれのコウノトリを放鳥



自然再生のシンボル コウノトリを放鳥

昨年、福井県で50年ぶりに生まれたコウノトリを10月に放鳥しました。里山里海湖研究所では、豊かな里山の恵みを体験できる「福井ふるさと学びの森」を県内3か所に拡げました。また、水月湖年縞による年代測定精度をさらに高めるため、立命館大学と、年縞研究に関する協定を締結しました。



高志中学校の第一期入学生たち

日本のモデル「福井の教育」

今年もトップクラス! 学力・体力

小中学生を対象とした全国学力調査・体力調査ともに、福井県の子どもは、今年も全国トップクラスでした。4月には、県内公立学校初の中高一貫教育校として高志中学校を開校。ふるさと福井の歴史や環境、産業、文化について自ら調査し、第一線で活躍する人から直接話を聞いて学ぶ、独自の教育プログラム「高志学」などを通じて、これからの時代を創るリーダーの育成を目指します。10月には教育全般の大きな方向を定めた「教育に関する大綱」を策定。福井の教育をさらにレベルアップしていきます。

元気な県政

国体めざす県民スポーツ、生活のなかに楽しむ県民文化

豊かな歴史文化を紹介

南越前町の中村家住宅が重要文化財に指定、旧北陸線の13トンネルが国登録有形文化財に登録されるなど、歴史文化関係のニュースも多岐にわたりました。若狭の往来文化遺産群〜御食国若狭と鯖街道〜が日本遺産に認定され、若狭歴史博物館では、記念の企画展を開催。地元根付いた文化を紹介しました。

また、17世紀のオランダを代表する画家レンブラントが、自身の作品に越前和紙を使用した可能性が高いことから、オランダのレンブラントハウス美術館と県立美術館で展覧会を開催。福井県の優れた伝統の技を発信しました。



福井県の鉄道史を伝える旧北陸線のトンネル

ふるさとの文学に親しもう

優れた作家を多く生んだ福井県、福井ゆかりの作家や福井を描いた作品などを通じて、福井の文化と風土を理解し、ふるさとへの理解を深める拠点として、県立図書館内に「福井県ふるさと文学館」をオープンしました。現在、福井県出身の作家 高見順の没後50年特別展を1月17日(日)まで開催中。ぜひご来場ください。

「希望ふくい」のふるさとづくり

市町と一緒に地域づくり

県と市町が協力して、地域の歴史や文化などを利用した賑わいづくりを応援する「ふるさと創造プロジェクト」。

目指そう! 福井しあわせ元気国体・大会

今年、多くのスポーツ選手が活躍しました。センバツ高校野球大会において、日本海側で初めて優勝した敦賀北高校に、福井県栄賞を贈呈。バドミントンの山口茜選手が、ドイツの国際大会で優勝し、ホッケーの朝日中学校と丹生高校や、ポートの美方高校と若狭高校などが輝かしい成績を残しました。また、有力選手の県内就職を応援する「スポジョブふくい」でU・Iターンした選手が活躍。ライフル射撃選手の和歌山国体優勝などにより天皇杯順位26位となったり、セーリング選手が県勢初のリオ五輪に出場決定しました。



そして、第73回国民体育大会(福井しあわせ元気国体)と第18回全国障害者スポーツ大会(福井しあわせ元気大会)の開催および会期が正式に決定しました。今月には、福井しあわせ元気国体の全42競技の開催日程も決定し、今後、市町や競技団体等と連携し、本格的な準備を進めていきます。また、開催機運を盛り上げるため、両大会の成功に向けた決起大会や昭和43年福井国体の感動を伝える回顧展、国体・大会ダンスの出演講座等を開催しました。さらに、多くの皆様に両大会を支えていただくため、はぴりゅう募金や募金グッズの販売も始めました。